

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成26年11月14日

【四半期会計期間】 第9期第3四半期(自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日)

【会社名】 株式会社ポーラ・オルビスホールディングス

【英訳名】 POLA ORBIS HOLDINGS INC.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 鈴木 郷史

【本店の所在の場所】 東京都品川区西五反田二丁目2番3号  
(同所は登記上の本店所在地で実際の業務は「最寄りの連絡場所」で行っております。)

【電話番号】 該当事項はありません。

【事務連絡者氏名】 該当事項はありません。

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区銀座一丁目7番7号

【電話番号】 03-3563-5517

【事務連絡者氏名】 常務取締役財務担当 久米 直喜

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

##### 連結経営指標等

回次	第8期 第3四半期 連結累計期間	第9期 第3四半期 連結累計期間	第8期
会計期間	自 平成25年1月1日 至 平成25年9月30日	自 平成26年1月1日 至 平成26年9月30日	自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日
売上高 (百万円)	137,346	142,019	191,355
経常利益 (百万円)	10,852	10,869	17,836
四半期(当期)純利益 (百万円)	4,905	4,879	7,318
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	6,992	5,454	11,171
純資産額 (百万円)	169,645	175,508	173,887
総資産額 (百万円)	211,308	217,884	218,005
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	88.73	88.25	132.39
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	88.67	88.17	132.29
自己資本比率 (%)	80.0	80.3	79.5

回次	第8期 第3四半期 連結会計期間	第9期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日	自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	27.19	21.31

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 売上高には、消費税等は含んでおりません。

## 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間（平成26年1月1日～平成26年9月30日）におけるわが国の経済は、政府の経済対策や金融政策による雇用及び所得環境の改善等を背景に、緩やかな回復基調が続いております。一方、個人消費は消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動が徐々に緩和していますが、回復の動きに停滞がみられます。今後は、駆け込み需要の反動の長期化や海外景気の下振れなど、景気を下押しするリスクに留意する必要があります。

国内化粧品市場においては、消費税率引上げ後の購入単価の下落傾向が続き、予断を許さない状況であります。海外化粧品市場においては、市場全体としては穏やかな拡大傾向が続くものの、中国をはじめとするアジア地域の経済成長に鈍化が見られるなど、国や地域によっては今後の厳しい状況も懸念されます。

このような市場環境のもと、今年度からスタートした新中期経営計画に基づき、国内の更なる収益基盤強化と海外展開の加速、資本効率改善による企業価値向上に向けた取り組みを進めてまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における業績は次のとおりとなりました。

当第3四半期連結累計期間の売上高は、オルビスブランドの新製品が順調に推移し、前年同期比3.4%増の142,019百万円、営業利益は上記売上高増加に伴う売上総利益増加により前年同期比5.7%増の10,367百万円となりました。以上の結果に加え、為替差益計上額の減少により、経常利益は前年同期比0.2%増の10,869百万円、四半期純利益は前年同期比0.5%減の4,879百万円となりました。

#### [ 業績の概要 ]

	前第3四半期 連結累計期間 (百万円)	当第3四半期 連結累計期間 (百万円)	前年同期	
			増減額 (百万円)	増減率 (%)
売上高	137,346	142,019	4,673	3.4
営業利益	9,809	10,367	558	5.7
経常利益	10,852	10,869	17	0.2
四半期純利益	4,905	4,879	26	0.5

## 〔セグメント別の業績〕

## 売上高（外部顧客への売上高）

	前第3四半期 連結累計期間 (百万円)	当第3四半期 連結累計期間 (百万円)	前年同期	
			増減額 (百万円)	増減率 (%)
ビューティケア事業	127,720	131,944	4,224	3.3
不動産事業	2,266	2,379	113	5.0
その他	7,359	7,695	335	4.6
合計	137,346	142,019	4,673	3.4

## セグメント利益（営業利益）

	前第3四半期 連結累計期間 (百万円)	当第3四半期 連結累計期間 (百万円)	前年同期	
			増減額 (百万円)	増減率 (%)
ビューティケア事業	8,676	9,405	728	8.4
不動産事業	1,011	1,031	20	2.0
その他	351	311	39	11.4
セグメント利益の調整額 (注)	229	380	150	-
合計	9,809	10,367	558	5.7

(注) セグメント利益の調整額とは、グループの内部取引に伴う利益及びセグメントに含まれない経費などを連結時に消去・加算した金額であります。なお、セグメント利益の調整額の詳細につきましては、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項（セグメント情報等） 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報（注2）」をご覧ください。

## （ビューティケア事業）

ビューティケア事業は、基幹ブランドとして「POLA」「ORBIS」を、育成ブランドとして「pdc」「FUTURE LABO」「ORLANE」「decencia」「THREE」を、海外ブランドとして「Jurlique」「H2O PLUS」を展開しております。

POLAブランドでは、お客さま満足の更なる向上を目指し、エイジングケア・ホワイトニング領域における新製品の開発やカウンセリング技術の強化等、販売品質の更なる向上に取り組んでおります。国内市場においては、ハイプレステージ化粧品市場におけるシェア拡大を目指し、お客さま一人ひとりに適したアイテムをご提案する個肌対応エイジングケア化粧品「アベックス」を7月に発売しました。海外市場においては、重点市場の中国百貨店事業にてお客さま数が増加しております。その結果、POLAブランドは前年同期並みの売上高となりました。

ORBISブランドでは、スキンケア商品の充実やインターネット販売の強化、新基幹システムを活用したお客さまとのコミュニケーション方法の進化や販売促進活動の更なる効率化に取り組んでおります。国内市場においては、2月に発売したブランド再構築の商品戦略面の中核を担う「ORBIS=U」が顧客単価・顧客数ともに順調に成長しております。海外市場においては、引き続きブランド認知拡大に向けた販売促進活動を行っております。その結果、ORBISブランドは前年同期を上回る売上高となりました。

育成ブランドについては、THREEブランドやdecenciaブランドが好調に推移した結果、前年同期を上回る売上高となりました。

海外ブランドについては、成長ドライバーであるアジアを中心とした高成長維持と収益貢献の実現に向けた取り組みを行っております。Jurliqueブランドでは、グループのR&D知見を活かした新エイジングケアシリーズ「ニュートリディファイン」を9月に発売しました。中国市場・豪州市場を筆頭に事業が拡大しており、Jurliqueブランドは前年同期を上回る売上高となりました。H2O PLUSブランドは中国市場での売上不調により、前年同期を下回る売上高となりました。

以上の結果、売上高（外部顧客に対する売上高）は131,944百万円（前年同期比3.3%増）、営業利益は9,405百万円（前年同期比8.4%増）となりました。

#### （不動産事業）

不動産事業では、都市部のオフィスビル賃貸を中心に、魅力的なオフィス環境の整備による賃料の維持向上と空室率の低下に取り組むとともに、子育て支援に特化した賃貸マンション事業も展開しております。当第3四半期連結累計期間は、賃料維持やテナント誘致に向けた営業努力により、前年同期を上回る売上高となりました。

以上の結果、売上高（外部顧客に対する売上高）は2,379百万円（前年同期比5.0%増）、営業利益は1,031百万円（前年同期比2.0%増）となりました。

#### （その他）

その他に含まれている事業は、医薬品事業及びビルメンテナンス事業であります。

医薬品事業では、化粧品や医薬部外品研究で培ってきた当社グループの研究成果を活用し、新薬開発及び販売を行っております。当第3四半期連結累計期間においては、重点領域である皮膚科領域にリソースを集中した継続的な活動の結果、外用抗真菌剤「ルリコン」が堅調な成長を続け前年同期を上回る売上高となりました。

ビルメンテナンス事業は、当社グループ会社を主な取引先としております。当第3四半期連結累計期間においては、新規取引先との成約に向けた営業活動により、前年同期を上回る売上高となりました。

以上の結果、売上高（外部顧客に対する売上高）は7,695百万円（前年同期比4.6%増）、営業利益は311百万円（前年同期比11.4%減）となりました。

## (2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ120百万円減少し、217,884百万円（前連結会計年度末比0.1%減）となりました。主な増減項目は、余剰資金の運用に伴う有価証券の増加4,193百万円並びに投資有価証券の増加4,377百万円、商品及び製品の増加2,520百万円、韓国事業撤退に伴う短期繰延税金資産を計上したことによる流動資産「その他」の増加2,123百万円により増加し、一方で現金及び預金の減少10,025百万円、受取手形及び売掛金の減少3,189百万円により減少しております。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ1,741百万円減少し、42,376百万円（前連結会計年度末比3.9%減）となりました。主な増減項目は、海外子会社の銀行借入による短期借入金の増加2,637百万円により増加し、一方で販売手数料未払金の減少等による流動負債「その他」の減少4,242百万円、未払法人税等の減少1,499百万円により減少しております。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ1,621百万円増加し、175,508百万円（前連結会計年度末比0.9%増）となりました。主な増減項目は、四半期純利益の計上4,879百万円、為替の影響による為替換算調整勘定の増加769百万円により増加し、一方で剰余金の配当3,869百万円により減少しております。

## (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について、重要な変更はありません。

## (4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、2,590百万円であります。なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

## (5) 主要な設備

当第3四半期連結累計期間において、前連結会計年度末に計画中であった重要な設備の新設および除却について完了したものは次のとおりであります。

## 新設

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額（百万円）			建築年月
				建物等	土地等	合計	
㈱ピーオーリアルエステート	高島台マンション (神奈川県横浜市神奈川区)	不動産事業	賃貸マンション	3,194	130	3,324	平成26年3月

(注) 土地については、ポーラ化成工業㈱が所有しております。

## 除却

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容
ポーラ化成工業 ㈱	静岡工場 (静岡県静岡市駿河区)	ビューティケア事業	生産設備

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	200,000,000
計	200,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成26年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年11月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	57,284,039	57,284,039	東京証券取引所 (市場第一部)	完全議決権株式であり、権利 内容に何ら限定のない当社の 標準となる株式であります。 なお、単元株式数は100株で あります。
計	57,284,039	57,284,039	-	-

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成26年7月1日～ 平成26年9月30日	-	57,284,039	-	10,000	-	-

## (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (7) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

平成26年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 2,000,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 55,274,200	552,742	-
単元未満株式	普通株式 9,839	-	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	57,284,039	-	-
総株主の議決権	-	552,742	-

## 【自己株式等】

平成26年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社ポーラ・オルビス ホールディングス	東京都品川区西五反田 二丁目2番3号	2,000,000	-	2,000,000	3.49
計	-	2,000,000	-	2,000,000	3.49

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成26年7月1日から平成26年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成26年1月1日から平成26年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	34,492	24,467
受取手形及び売掛金	24,023	20,834
有価証券	17,608	21,801
商品及び製品	12,099	14,620
仕掛品	1,699	1,794
原材料及び貯蔵品	4,983	5,280
その他	7,779	9,902
貸倒引当金	150	110
<b>流動資産合計</b>	<b>102,537</b>	<b>98,591</b>
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物（純額）	18,286	20,595
土地	22,380	22,276
その他（純額）	16,322	14,217
<b>有形固定資産合計</b>	<b>56,989</b>	<b>57,088</b>
<b>無形固定資産</b>		
のれん	15,856	15,542
商標権	12,327	12,618
その他	9,842	9,546
<b>無形固定資産合計</b>	<b>38,025</b>	<b>37,707</b>
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	14,122	18,500
その他	6,450	6,090
貸倒引当金	120	94
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>20,452</b>	<b>24,496</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>115,467</b>	<b>119,293</b>
<b>資産合計</b>	<b>218,005</b>	<b>217,884</b>

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形及び買掛金	4,105	5,436
短期借入金	1,034	3,671
未払法人税等	3,568	2,068
賞与引当金	1,731	2,373
ポイント引当金	1,783	2,448
その他の引当金	948	673
その他	17,470	13,228
流動負債合計	30,640	29,899
<b>固定負債</b>		
長期借入金	1,000	1,000
退職給付引当金	5,908	5,118
その他の引当金	67	72
その他	6,500	6,285
固定負債合計	13,477	12,476
負債合計	44,117	42,376
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	90,718	90,718
利益剰余金	67,941	68,950
自己株式	2,199	2,199
株主資本合計	166,460	167,469
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	454	465
為替換算調整勘定	6,335	7,105
その他の包括利益累計額合計	6,789	7,570
新株予約権	90	127
少数株主持分	546	341
純資産合計	173,887	175,508
負債純資産合計	218,005	217,884

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年9月30日)
売上高	137,346	142,019
売上原価	27,536	27,896
売上総利益	109,810	114,122
販売費及び一般管理費		
販売手数料	33,559	33,656
販売促進費	13,715	14,022
広告宣伝費	5,413	5,305
給料手当及び賞与	15,408	16,205
賞与引当金繰入額	2,209	2,239
ポイント引当金繰入額	1,446	2,420
その他	28,247	29,905
販売費及び一般管理費合計	100,000	103,754
営業利益	9,809	10,367
営業外収益		
受取利息	315	268
受取配当金	24	5
為替差益	631	230
その他	155	201
営業外収益合計	1,126	706
営業外費用		
支払利息	59	129
その他	24	75
営業外費用合計	83	205
経常利益	10,852	10,869
特別利益		
固定資産売却益	319	335
その他	1	1
特別利益合計	321	337
特別損失		
固定資産売却損	4	16
固定資産除却損	158	99
事業整理損	1 1,026	1 153
事業構造改善費用	2 894	2 1,566
その他	16	25
特別損失合計	2,099	1,860
税金等調整前四半期純利益	9,073	9,345
法人税、住民税及び事業税	5,645	5,839
法人税等調整額	1,404	1,161
法人税等合計	4,241	4,677
少数株主損益調整前四半期純利益	4,832	4,668
少数株主損失( )	72	210
四半期純利益	4,905	4,879

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	4,832	4,668
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	404	10
為替換算調整勘定	1,749	773
持分法適用会社に対する持分相当額	6	1
その他の包括利益合計	2,160	786
四半期包括利益	6,992	5,454
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	7,059	5,659
少数株主に係る四半期包括利益	67	205

## 【注記事項】

( 連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更 )

当第3四半期連結累計期間  
(自 平成26年1月1日 至 平成26年9月30日)

第2四半期連結会計期間において、株式会社DomierDECOを新たに設立したことにより、連結の範囲に含めております。

当第3四半期連結会計期間において、株式会社エクスプレステージを新たに設立したことにより、連結の範囲に含めております。

(四半期連結貸借対照表関係)

偶発債務

下記相手先の金融機関等からの債務に対し、債務保証を行っております。

前連結会計年度 (平成25年12月31日)		当第3四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)	
従業員	201百万円	従業員	144百万円

(四半期連結損益計算書関係)

1 事業整理損

前第3四半期連結累計期間(自 平成25年1月1日 至 平成25年9月30日)

平成25年4月18日に当社取締役会にて決議しましたPOLAブランドのアメリカ事業撤退に伴う損失額であります。

当第3四半期連結累計期間(自 平成26年1月1日 至 平成26年9月30日)

平成26年8月21日に当社取締役会にて決議しましたORBISブランドの韓国事業撤退に伴う損失額であります。

2 事業構造改善費用

前第3四半期連結累計期間(自 平成25年1月1日 至 平成25年9月30日)

平成25年4月1日付けで、当社連結子会社において導入した早期退職優遇制度の実施に伴う特別加算金及び再就職支援費用等であります。

当第3四半期連結累計期間(自 平成26年1月1日 至 平成26年9月30日)

平成26年8月21日に当社取締役会にて決議しました、当社の連結子会社であるポーラ化成工業株式会社が所有する静岡工場の閉鎖及び解体に係る費用等を計上しており、その内訳は次の通りであります。

解体撤去費用及び設備移設費用	574	百万円
固定資産除却損	807	"
棚卸資産評価損・廃棄損等	183	"
計	1,566	百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産及び長期前払費用に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年1月1日 至 平成25年9月30日)		当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年1月1日 至 平成26年9月30日)	
減価償却費	4,964	百万円	5,129	百万円
のれんの償却額	808	"	666	"

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成25年1月1日至平成25年9月30日)

## 1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年3月28日 定時株主総会	普通株式	1,382	25.00	平成24年12月31日	平成25年3月29日	利益剰余金
平成25年7月30日 取締役会	普通株式	1,382	25.00	平成25年6月30日	平成25年9月13日	利益剰余金

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成26年1月1日至平成26年9月30日)

## 1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年3月27日 定時株主総会	普通株式	1,658	30.00	平成25年12月31日	平成26年3月28日	利益剰余金
平成26年7月30日 取締役会	普通株式	2,211	40.00	平成26年6月30日	平成26年9月12日	利益剰余金

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成25年1月1日至平成25年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	ビューティ ケア事業	不動産事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	127,720	2,266	129,986	7,359	137,346	-	137,346
セグメント間の内部 売上高又は振替高	59	492	551	2,430	2,982	2,982	-
計	127,779	2,758	130,538	9,790	140,328	2,982	137,346
セグメント利益	8,676	1,011	9,687	351	10,039	229	9,809

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、医薬品事業及びビルメンテナンス事業を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額 229百万円には、セグメント間取引消去1,457百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 1,687百万円が含まれております。全社費用は、報告セグメントに帰属しない当社本社の管理部門に係る費用等であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間（自平成26年1月1日至平成26年9月30日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	ビューティ ケア事業	不動産事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	131,944	2,379	134,324	7,695	142,019	-	142,019
セグメント間の内部 売上高又は振替高	61	449	510	2,525	3,035	3,035	-
計	132,005	2,828	134,834	10,220	145,054	3,035	142,019
セグメント利益	9,405	1,031	10,436	311	10,748	380	10,367

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、医薬品事業及びビルメンテナンス事業を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額 380百万円には、セグメント間取引消去1,314百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 1,694百万円が含まれております。全社費用は、報告セグメントに帰属しない当社本社の管理部門に係る費用等であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

該当事項はありません。

（のれんの金額の重要な変動）

該当事項はありません。

( 1株当たり情報 )

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	88.73円	88.25円
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	4,905	4,879
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	4,905	4,879
普通株式の期中平均株式数(株)	55,284,039	55,284,039
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	88.67円	88.17円
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(百万円)	-	-
普通株式増加数(株)	36,431	54,741
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

( 重要な後発事象 )

該当事項はありません。

## 2 【その他】

当期中間配当に関し、平成26年7月30日開催の取締役会において、平成26年6月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議し、配当を行っております。

- |                       |            |
|-----------------------|------------|
| 1. 中間配当金の総額           | 2,211百万円   |
| 2. 1株当たり中間配当額         | 40.00円     |
| 3. 支払請求権の効力発生日及び支払開始日 | 平成26年9月12日 |

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年11月14日

株式会社ポーラ・オルビスホールディングス  
取締役会 御中

### 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 山崎博行 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 村山孝 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 杉本義浩 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ポーラ・オルビスホールディングスの平成26年1月1日から平成26年12月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成26年7月1日から平成26年9月30日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成26年1月1日から平成26年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ポーラ・オルビスホールディングス及び連結子会社の平成26年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。